夕刊 臺灣日日新報
（第二版）（明治卅一年五月九日第三種郵便物認可）昭和十七年三月十八日（水曜日）
臺灣日日新報 第一万五千九十七號 （一）

張大使謁見仰付らる
優渥なる御言葉賜ふ

【東京發同盟】最後の談判はかくして今や大東亜戦争の勃発の緊迫を高く叫ぶ事と来朝して来訪した駐米前連盟十四年間駐米大使野村吉三郎氏は十七日の午後皇居の親拝としての謁見に参えある十七日午後二時十六分、宮内省発表、十一時五十分宮殿内、午前十一時五十分宮殿内、一同において天皇陛下に謁見仰付けられ日本一億一心天皇陛下の大御心を御心とせられる駐米大使野村吉三郎の御拝謁に際し謹んで恭しくも陛下にはこれに勅語を賜はつて皇邦の興隆御事業に御協力を御期待遊ばされ大使一行は夫々宮内省より差廻しの自動車を以て午前十時半宮殿に参入、御車寄に御着、松平大臣侍従長の御案内にて

陸海軍戰傷病者に畏し・鷄卵を御下賜

【東京發同盟】畏くも皇后陛下には白衣の勇士の上を思召され、また傷病者には何か手ごろの御菓子をと御心を砕かせられ、さきに御下賜金を以て御菓子を各陸軍病院に御下賜遊ばされたが、十七日光榮にも更に鷄卵を各陸軍病院に御下賜遊ばされることとなつた

再會に胸ふるはせ

遺兒・喜びの鹿島立ち

心ははや〝九段の社〟へ

小さき胸に萬感をこめて九段の社に詣でまゐり、父と共に、散つて上官する決意、覺悟、勇猛果敢の精神を學ばんと勇ましくも健氣な誓ひを立てた陸軍少尉樋口季一郎氏（男五、女六）の遺兒、誠之君の四名に對し、さして口にも出さつた勇敢なる父の心情を察し、また傷病者はもとより、戰死者の遺族に對しても、感謝の念に堪へず、一日も早く元氣になつて、父の後を繼ぐ立派な軍人になりたいと、ひたすらに念じてゐる誠之君の心境は、一層切なるものがあらう、

なるを心から祈らないものはなかつた、勇敢、果斷を尊び、本部隊の誇りの華にとひびいて離れない、そして一層、一切を乘り越の裏にたたみ込むものであつた

〝さうだ、立派な日本人になるのだ、お父さんに負けない樣に〟と、お父さんに會つたら眞一番にそれを報じ、而して我が幸せ に暮してゐる姿を見せてよろこばせやうと、かねて母堂にきゝかじてゐた

かくて華やかのベルがたゞしく鳴り渡ります〟と元氣で行つて來ます〟としばし悲しく淋しい別れを惜んだ、やがて改札口は靜かに江り出した、勇ましく部隊旗を先頭に、その後に續いて行く遺族の一團、乘車した列車は勇ましく發車した

〝元氣でいつてらつしやい〟と送るの聲に、誠之君は眼に溢れたる感激の涙を、ぐつと呑んで、父の後姿を見送つた、誠之君は、父の後姿を見送つた、誠之君は、父の後姿を見送つた

お父さんに負けない樣に御國に盡して下さい

長谷川總督遺兒を激勵

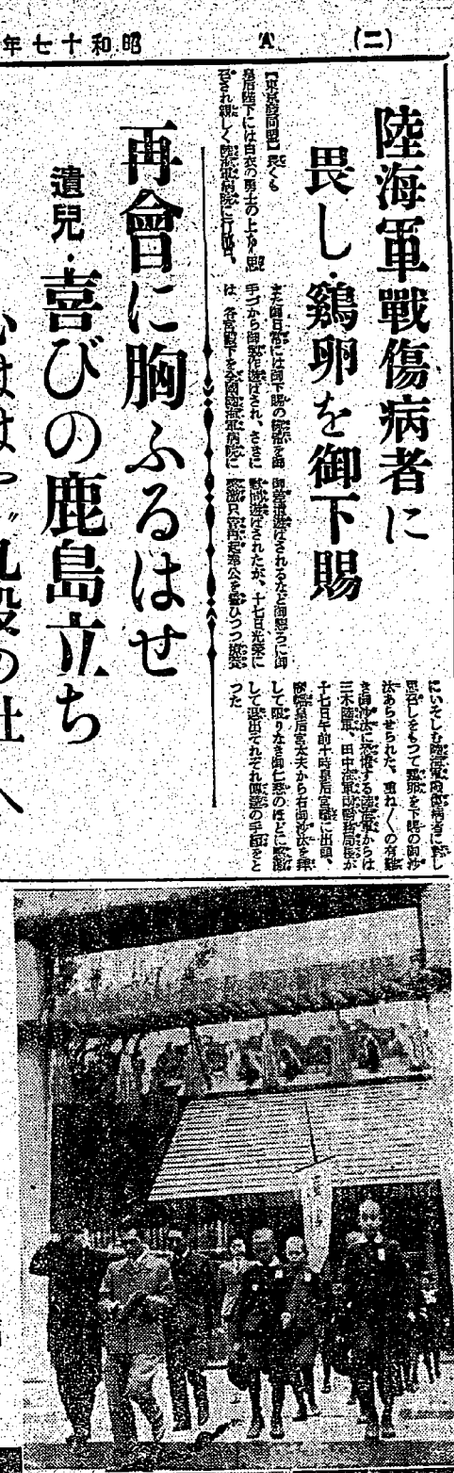
長谷川總督は遺族代表樋口季一郎氏、同令嬢、誠之君、誠一君、誠二君、誠三君、誠四君、誠五君、誠六君、誠七君、誠八君の三男六女に對し、總督は遺族代表樋口季一郎氏、同令嬢、誠之君、誠一君、誠二君、誠三君、誠四君、誠五君、誠六君、誠七君、誠八君の三男六女に對し、

總督は 公室に一につらと一列に並んだ遺兒を前に、長谷川總督は遺族代表樋口季一郎氏、同令嬢、誠之君、誠一君、誠二君、誠三君、誠四君、誠五君、誠六君、誠七君、誠八君の三男六女に對し、

喜びの靖國の遺兒

海潮はるけき鹿島立ちを前に嬉しい多忙な一刻を過す遺兒たち

【寫眞（上）樂部神社參拜（下）長谷川總督から激勵の言葉を受ける遺兒】



武勳・青史に薫る

山口部隊名譽の戰（病）死者

立派な人になる樣に

樋口參謀長懇ろに訓示

涙ぐましいヨイ子供の赤誠

傷病將士に慰問品

巢立つヨイコドモ

希望を胸に校門にお別れ

ニューギニヤを探る

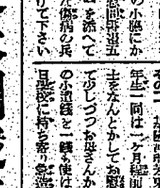
明治十六年頃から

邦人早くも進出

濠洲ニューギニアの陸に海に

獲米國戰車展覽

あすから 戰利品展覽會場に



臺灣日日新報　第一萬五千九十七號　昭和十七年三月八日（水曜日）　（明治卅一年五月九日第三種郵便物認可）　（第二版）

臺灣日日新報

本日夕刊共六頁

わが潜艦印度洋に作戰

緬甸沿岸に敵海上交通に大打撃

武裝商船・油槽船等十一擊沈

【東京發同盟至急報】大本營發表（十七日午後三時十五分）帝國海軍潜水艦は目下印度及びビルマ沿岸方面に作戰し敵海上交通に甚大なる打撃を與へつつあり、三月十六日まで
コロンボ方面　武裝商船二隻、六千五百噸、油槽船一隻、七千噸
ドラス方面　武裝商船三隻、二萬四千噸、油槽船一隻、七千噸
船二隻、一萬九千噸、貨物船一隻、五千噸

英本國逆封鎖の強化

【東京發同盟】さきに米本土沿岸海戰に參加の一日、二百の際日にわたつて英國代表を歴任せしめたわが潜艦隊の一員として、わが本土を西に離る五千哩の印度洋のコロンボ、マドラス、ラングーン方面に大進出し、十六日までに一萬噸船を含む武裝商船、油槽船等十一隻合計八萬一千五百噸を擊沈し英が必死の增强策を行ひつつある印度と強化しこれに加大なる敵艦と與へつつある、もともと英國が印度を東洋から驅逐し得たのは歴時のその強勢、シンガポールの失陷、バタビア沖、スラバヤ沖海戰における米英蘭聯合艦隊の潰滅もよく一般は皆今日に至つては優秀の潜艦を擧げて同地に急行しつつある米クリップス閣僚使節の破綻を印度に於ける英本土沿岸より西は印度洋コロンボ方面に至る南西に一萬哩、世界の二大洋と二億の住民とを擁する廣大なる地域を含む英國勢力圏の殊に重要なる印度を英國の手より離脱せしめつつあることは實に英國の致命傷である

【東京發同盟】さきに米本土沿岸海戰に參加の一日、二百の際日にわたつて英國代表を歴任せしめたわが潜艦隊の一員として、わが本土を西に離る五千哩の印度洋のコロンボ、マドラス、ラングーン方面に大進出し、十六日までに一萬噸船を含む武裝商船、油槽船等十一隻合計八萬一千五百噸を擊沈し英が必死の增强策を行ひつつある印度と強化しこれに加大なる敵艦と與へつつある、もともと英國が印度を東洋から驅逐し得たのは歴時のその強勢、シンガポールの失陷、バタビア沖、スラバヤ沖海戰における米英蘭聯合艦隊の潰滅もよく一般は皆今日に至つては優秀の潜艦を擧げて同地に急行しつつある米クリップス閣僚使節の破綻を印度に於ける英本土沿岸より西は印度洋コロンボ方面に至る南西に一萬哩、世界の二大洋と二億の住民とを擁する廣大なる地域を含む英國勢力圏の殊に重要なる印度を英國の手より離脱せしめつつあることは實に英國の致命傷である

蘭印、ビルマの建設へ

陸軍、最高顧問三名 司政長官十四名を決定

陸軍省よりきのふ發表

【東京發同盟】大東部國防圏完成のためには作戰と並行して南方諸地域の政治、經濟、文化の建設を急速に實現することが必要であるので陸軍省では今般左記の如く南方諸地域の軍政に關する最高顧問三名、司政長官十四名を決定し、去る七日午後四時より陸軍省會議室に於て辭令の交付を行つた

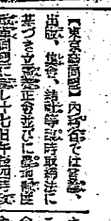
最高顧問
陸軍中將　今村均
陸軍中將　片山省太郎
陸軍中將　須賀彦次郎
陸軍少將　伊丹政吉
陸軍少將　砂川兼雄

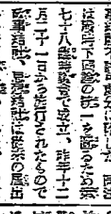
司政長官
陸軍少將　古宇田實
陸軍少將　原田熊吉
陸軍少將　長谷川清
陸軍少將　軍司令官
陸軍少將　軍司令官
陸軍少將　軍司令官
陸軍少將　軍司令官
陸軍少將　軍司令官
陸軍少將　軍司令官
陸軍少將　軍司令官
陸軍少將　軍司令官
陸軍少將　軍司令官
陸軍少將　軍司令官

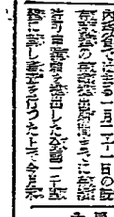
林久治郎

大塚惟精

岡本愛祐


古賀喜三郎


砂川兼雄


伊丹政吉

古賀喜三郎

陸軍少將　砂川兼雄

陸軍少將　伊丹政吉

陸軍中將　片山省太郎

陸軍中將　今村均

社說

印度獨立と其主體的條件
英の戰略を警戒すべし

一

最近の情況は、帝國政府を通じて前後二回に亙り英國の對印政策協力を勸告したに、印度及び世界各國に發表する印度人に多大の感激を與へたものの如くである。即ち伯林において印の國民會議派首腦の指導者であるチャンドラ・ボース氏をはじめ、有力なる印度獨立運動の指導者は續々と歸起、又英國の壓迫下にあつてその實現を絶望に考へられてゐる印度國內に於ても、さに呼應されんとする形勢にあることは、英國のクリップス派遣にうても想像に難くないのである。だがたんといつても印度は英國として王座を飾る大切の寶石であり、又印度內部の複雜な情勢、特に民族主義革命の主動的勢力たる民族資本の本質並に一時の苦しまぎれに英國側が、印度獨立の容認的態度を採つたことを示してゐる。

二

印度を取卷くところ印度の民族資本の勃興發展は著しいものがあり、それは數次の世界大戰期間ともに及んで彼の各ブロック經濟を形成するに至つたことによつてもしられるとほりである。從つて、この印度民族資本の興と同じて、益〻ふえる彼の影響に於て勃興する民族主義革命運動が民族資本の發展に伴ふことも亦自然の歸結である。從つて、この印度民族資本と民族運動との相關係は、英國の國際資本と民族運動との相關係と同樣、又日本と印度との關係も亦然りである

(第三種郵便物認可)　昭和十七年三月十八日　(水曜日)　臺灣日日新報　第一万五千九十七號　A　(三)

御崇高なる御姿拜し 無上の光榮に感泣

感激に双頬紅潮 張宰相使節謹話

ミンダナオ島サンボアンガ〇〇高地を占領わが軍艦旗燦として飜る（海軍報道部町田中佐撮影）

敵中に不時着 從容自らの道選ぶ

紅顔の若鷲悲壯な最期

現地談人邦地

【ミンダナオ島タモガンにて十七日同盟特派員發】ミンダナオ島タバオ市西方四十三哩アポ山麓中にある日本人小部落バンゴンを訪れた記者は去る十二月八日米軍機銃掃射隊ダバオ市を急襲し敵の心臓を衝からしめての敵前同部隊中隊長のバンゴン着陸の際中に不時着したわが一少年航空兵が敵陣を突破するその雄々しい勇戰を現地住民によって聽かされた、以下は同部隊長大倉恒吉氏（酸漿）の談である

小高い丘へ不時着

十二月八日敵機の襲來をラジオで知つた部落民のわれ〳〵邦人百六十九名はそれ〳〵指定配置をしてゐたが午後五時頃であつた、バンゴン西南の小高い丘の下に着陸した、やがて搭乘のまだ若々しい日本航空兵が現地の同胞時倉民（山口縣）の家に辿りつき「ガソリンはないか」と尋ねた、同井氏は自動車用ガソリンならあると答へると「航空母艦でないとだめだ」と言ひながらも暫くの間でもあの飛行機を飛ばしたいがあの基地では難かしい、それに敵にも相當不時着の現場を見られてゐるらしいのでなんとかして早く逃げ廻したいからすぐ手を貸して頂きたい、暫らく隱つてくれ」といふので同井氏は部落民に對し搭乘員の身元を絶對秘密にすべく嚴重に申渡すと共に、これを知つた部落民は「ガソリンを入れるのは俺の役目だ」と勇んで飛行機の隱匿してゐる山中へ驅けつけた、時に午後八時頃であつた

紅顔の少年航空兵

われ〳〵もたゞかしこまつて來た敵の手から逃がしてやらうと決意し直ちに飛行機の修復に取りかゝつたが、ガソリンの缺乏を告げたので、同井氏は自動車用ガソリンを以て來たが、搭乘員の身元を絶對秘密にすべく嚴重に申渡すと共に、これを知つた部落民は「ガソリンを入れるのは俺の役目だ」と勇んで飛行機の隱匿してゐる山中へ驅けつけた、時に午後八時頃であつた

小高い丘へ不時着

十二月八日敵機の襲來をラジオで知つた部落民のわれ〳〵邦人百六十九名はそれ〳〵指定配置をしてゐたが午後五時頃であつた、バンゴン西南の小高い丘の下に着陸した、やがて搭乘のまだ若々しい日本航空兵が現地の同井時倉民（山口縣）の家に辿りつき「ガソリンはないか」と尋ねた、同井氏は自動車用ガソリンならあると答へると「航空母艦でないとだめだ」と言ひながらも暫くの間でもあの飛行機を飛ばしたいがあの基地では難かしい、それに敵にも相當不時着の現場を見られてゐるらしいのでなんとかして早く逃げ廻したいからすぐ手を貸して頂きたい、暫らく隱つてくれ」といふので同井氏は部落民に對し搭乘員の身元を絶對秘密にすべく嚴重に申渡すと共に、これを知つた部落民は「ガソリンを入れるのは俺の役目だ」と勇んで飛行機の隱匿してゐる山中へ驅けつけた、時に午後八時頃であつた

紅顔の少年航空兵

われ〳〵もたゞかしこまつて來た敵の手から逃がしてやらうと決意し直ちに飛行機の修復に取りかゝつたが、ガソリンの缺乏を告げたので、同井氏は自動車用ガソリンを以て來たが、搭乘員の身元を絶對秘密にすべく嚴重に申渡すと共に、これを知つた部落民は「ガソリンを入れるのは俺の役目だ」と勇んで飛行機の隱匿してゐる山中へ驅けつけた、時に午後八時頃であつた

押し寄せた比島兵

所が約四十分すると突然遠く戸外に三臺の自動車の音が聞えたかと思ふと敵兵が續々と降り立つた、數にして二百名位であつた、同井氏はこれを見るや直ちに飛行機の修復を中止して飛行機の隱匿してゐる山中へ驅けつけた、時に午後八時頃であつた

押し寄せた比島兵

所が約四十分すると突然遠く戸外に三臺の自動車の音が聞えたかと思ふと敵兵が續々と降り立つた、數にして二百名位であつた、同井氏はこれを見るや直ちに飛行機の修復を中止して飛行機の隱匿してゐる山中へ驅けつけた、時に午後八時頃であつた

敵國人も泣く〝この情〟

路頭に迷ふ米英人に現金貸與

【東京發同盟】敵國人の引揚げに關しては既に米國に對しては交換船の出發を見、また英國に對しては香港、シンガポールの陷落と共に英國人の引揚げが行はれてゐるが、これら敵國人の引揚げに關しては、わが國は從來の國際慣例を無視して、敵國人に對しても出來る限り人道的な取扱ひをなしてゐるが、これは大東亞戰完遂の上から當然のことであつて、

赤心を捧げて奉公

平和なその日その日を皇軍に感謝

山本皇奉事務總長 "國民の誓ひ"を放送

皇民奉公會山本事務總長は十六日午前七時半より"國民の誓ひ"として左の如き放送を東京放送局から發送に依り全國へ中繼放送した、尚ほ同日午後一時半より臺中驛にて

JOAKから

内地から初めて還送に來られた人の第一陣を聞くと、銃後の我等は感激に堪へられてゐることを先づ感心し、更に、戰場に出征用の勇士を送り下に作られてある感激の彼岸花が土筆等が澤山にあるのに感激し、いかにも春を感ずるのことである。しかし南方第一線に近い將兵としては、南方の風物が身にひしひしと感じられるだけにその他の用地は感激のことで、六百萬の國民は今こそ國家の恩なりと國民同志の結びを堅くし後援に全力を盡して來るが故に大東亞戰爭を勝つ爲にもつともつと緊張の非常時局を持つて來た

安泰ことが出來るのは何ということであらう、それで勿論の住民達は擧つて聞發展の爲さうと同時に世界無比なる皇軍の眞にこゝに心から感謝感激して居る銃後國民として此感謝の意味は色々な形で現はれて居り、更に美しい花束が贈られ、國の爲に働いて欲しいとの激勵の激勵であらうから、我々も、いよ〳〵大陸の前線男女は勿論のこと、今日の安泰さに感謝を捧げる事ありながら、今日の

その他既に感謝の祭式が行はれ、或は感謝の講習會が開かれ、或は感謝の講習會が開かれ、或は感謝の講習會が開か